



高浜市の未来を描く市民会議

ニュースレター 2010. 4. 26(月) VOL.5



事務局:高浜市地域協働部地域政策グループ 高浜市青木町四丁目1番地2 TEL0566-52-1111(内線 352)

各分科会の検討内容や進捗状況を発表しました!

4月7日(水)高浜市役所にて5回目の市民会議を開催しました。参加者は104人でした。協働のまちづくりの第一歩は『情報共有』ということで、今回は各分科会から現在の進捗状況について報告をしました。短い時間でしたが、発表の仕方ひとつにしても分科会ごとに違い、生き活きとした『みんなの意見』を確認しあいました。



【自治基本条例分科会】

自治基本条例策定の必要性を確認するとともに各地の策定事例や実施されている条文を参考に高浜市にふさわしい自治基本条例のイメージを膨らませています。『住んでいて良かった』『住んでみたい』と思える高浜市をみんなで作っていくための基本ルールとなるように、メンバーや他の分科会の皆さんから意見・アイデアをご提案いただきながら、力を合わせて進めていきたいと思えます。



リーダーの
板倉良平さん



【行財政分科会】

私たちの分科会ではワークショップ「タカハマ・カフェ」を受けて、高浜市の行財政運営についての現状・課題を出し合いました。3回目の分科会からは「子どもにツケをまわさない」「健全な行財政運営」「市民とともに歩む経営」に向けて、「わかりやすい予算書」の検討を始めています。今後は作成した予算書がどうしたら市民の皆さんに分かりやすく関心を持っていただけるものになるかをメンバー全員でアイデアを出し合って検討していきます。



リーダーの
小笠原芳夫さん

【教育分科会】

「タカハマ・カフェ」で吸い上げた教育関連の意見についての意見を反映させるか検討しています。あわせて教育分科会のメンバーは「教育基本構想策定委員会」に参画し、夏の間発表までに総合的に協議していきます。



リーダーの
竹内一仁さん

【生涯学習分科会】



生涯学習基本構想の策定も同時に検討しています。分科会では子どもを地域の大切なつなぎ役、共有財産と捉え、「地育力(地域教育力)」「校区コミュニティづくり」などをキーワードに岩崎正弥先生(愛知大学三遠信地域連携センター長、経済学部教授)をお招きして、生涯学習に対する思いを出し合っています。



リーダーの
尾方勝利さん

【子育て・子育て分科会】

私たちの分科会では各自が気になることを率直に出し合うことによって、課題や他の分科会との関係性が出てくるのではないかと意見を出し合っているところです。「昭和」の時代のように、人とのつながりを大事にしながら、今の時代に即した子育て、子育てのあり方を考え、みんなの思いのこもった計画を作成していきたいと思っています。



リーダーの
鈴木康博さん



【環境分科会】

ワークショップ「タカハマ・カフェ」で出た意見から環境に特化した現況と課題について話し合っています。環境関係の現行計画について市担当職員より説明を受け、緑化やごみ問題といった身近な問題・課題から考えを深めていこうと思っています。



リーダーの竹内享弘さん



【産業分科会】

まずは高浜市の産業の実像を知ろうということから、市内の工業・商業関係 250 事業者を対象にアンケートを実施中です。平成 20 年度に行われた農業関係のアンケート結果と合わせて結果を分析

これから各産業に対して市の取り組むべき施策について検討していきます。あわせてコミュニティビジネス、雇用、観光関係の提案も考えていきます。



リーダーの神谷環光さん



【地域福祉分科会】

ワークショップで出た意見をもとに“人とのつながりを深め、地域に住む誰もが、支えあえるまちにする”ために「友だち 100 倍増やそう～高浜大家族計画～」をキャッチフレーズに検討作業を進めています。

今後は、高浜市民みんなが家族であるような近所との関係づくりや、誰もが普通に暮らせるまちづくりに向けて具体的な意見交換をしていきます。



リーダーの古橋知美さん



【都市基盤分科会】

ワークショップで「安心・安全に関する意見」への関心が高かったことを踏まえて、地域防災、防犯に重点を置いて検討しています。いつ起こるかかわからない自然災害や一部の人がしか関係がないと思われがちな犯罪に対し、関心を持っていただけるような意識の高揚に向けた手法や、継続的な地域ぐるみでのみんなで支えあう新しい組織づくりに必要なしかけづくりを検討していきます。



リーダーの神谷和之さん



【中川幾郎先生(総合計画審議会会長)からのアドバイス】

報告の中に「ないものねだり」がないことに感心した。皆さんのビジョン・構想力がしっかりしている。

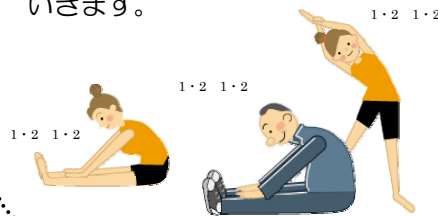
- 現状認識を行うには虫の目のように間近で見ただけでなく鳥のように俯瞰(ふかん)して見ることも大切。
- 課題解決の方法はいくつか出し、どれが一番いいか選択する。また分科会相互にまたがった政策や課題、その解決方法などココの広がりや重なりが生じるものこそ優先順位が高いと捉える。
- 「こういうふうになったらいいなあ」ということだけでは計画にならない。「個人が行うこと」「近隣や地域が行うこと」「行政でないとできないこと」の3つを意識してほしい。3者の役割を描きだしたら、行動に移せるしっかりした計画に繋がる。
- 「あれもしたい」「これもしたい」は成り立たない。最終的にどのようなことを最優先するかをそれぞれの分科会ごとに選んでほしい。(自治体も経営感覚が不可欠。①コストダウン⇒②生産性の向上⇒③効果を意識してほしい)
- 「○△□(まる・さんかく・しかく)の法則」を意識してほしい。○は 24 時間という時計、生活の全サイクル、△は世代別・性別のピラミッド、□は全ての地域を意味する。地域それぞれの特性・個性に立脚した仕組みを考えてほしい。



中川幾郎先生

【健康分科会】

「これからの高浜市民の健康管理はどうあるべきか・市民として行政として何を望み、行政は何ができるか？」というテーマを、こども・青年壮年・高齢期という世代ごとに意見交換しています。こどもはその親を含めた展開に向けて、青年壮年は高齢期に向けた健康意識の変革、高齢期には健康だけでなく生きがいとネットワークというように世代に合った健康づくりについて検討していきます。



リーダーの神谷通夫さん

【編集後記】毎回 100 人以上のメンバーが集まり、傍聴席を含めると 120 人が集う、熱気あふれる市民会議です。月に何回も全体会や分科会がありますが、出席率の高さにはいつも頭が下がります。お忙しい中ご都合を合わせて出席いただき、本当にありがとうございます。特に夕方からの会議は元気よく、笑顔であいさつ！と心がけていますが、ご足労いただいた皆さんから先にあたたかい言葉をかけて頂くことも多く、励みになっています。『時間を合わせる』とはまさに『心を合わせる』につながると胸に迫る思いがします。そして真剣に、熱い意見が交わされていく会議では回数を重ねるごとに皆さんの心も重なっていく『大家族たかほま』を感じています。(K, K)

